

保護者が伸ばせる

子どもの 非認知能力



非認知能力とは

コミュニケーション能力や自尊心、社会性など数値で示すことが困難とされる力のこと

従来の学力や偏差値などの目に見える力「認知能力」に対して、目に見えない能力を総称して「非認知能力」と読んでいます。

正解のない問題にあふれる現代社会を生きる子どもたちには、今「認知能力」だけでなく、「非認知能力」のように、「どんな環境でも自分で考え、たくましく生きる力」が必要になってくると言われています。



今回は、非認知能力の中の「自制心」を育む保護者の声かけの習慣を紹介します。

家庭で

お子さんの「自制心」を育む 保護者の声かけの習慣



自制心とは

「やりたいか、やりたくないか」にかかわらず、「やるべきときにはする」「してはいけないことはしない」を自分でコントロールする力です。

自制心を育むカギは「その場にふさわしい行動を自ら選べるようになること」です。そのために効果的な保護者の声かけは、叱ることでもご褒美でもなく、繰り返しその場にふさわしい行動を自ら選べるように導くことだと言われています。



～夕方までに宿題をする約束をしていて～
自制心を育むのはどっち？



「あ～なるほど」と納得したうえで、お子さんがその場にふさわしい行動を自ら選べるように導きましょう。

A



B



自分をコントロールできる力(自制心)は、何かを達成しようとするときに必ず必要になる大切な力です。「その場にふさわしい行動を自ら選ばせること」そしてそれを「習慣化させること」は、お子さんへの最大のプレゼントになります。

ぜひ、自制心を育む声かけで、その場にふさわしい行動を自ら選べる手助けをされてみてはいかがでしょうか。